

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 11 - 1

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	陶芸推進事業			
評価者	担当課・係名	社会教育課・社会教育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	安田伸雄	氏名
				職名
				係長
				齋藤康志
事業の概要	陶芸という芸術文化活動を通して、子どもから大人まで幅広く親しむことができ、また世代間の交流等を図るよう推進している。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	14	芸術・文化の振興	
	単 位 施 策	2	芸術・文化活動の促進	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総 事 業 費	819千円	865千円	760千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	746千円	798千円	760千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	陶芸愛好者による自立した活動へのシフトが不十分である。		開館日数		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	陶芸工房管理人体制の現状維持と文化の伝承等活動の中核的な役割。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	陶芸文化の継続と文化的な活動の活性化。		①開館日数	目標年度	19年度
			目標値	125	
			実績値	120	
			達成度	96%	
		②	目標年度	年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①陶芸活動の推進	管理人を配置することで、事業の推進を図り、併せて陶芸についての興味付を行っている。				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	多種多様な芸術文化活動の場を提供することは、意義あるものであり、陶芸活動も徐々に根付いてきております。事業を実施しない場合は、本町の芸術文化活動の衰退につながりかねない。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、学校での取り組みも増え、教育的・文化的な面からも期待できた。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	焼成用のガス代については、利用者負担としており、施設に係る経費だけを予算計上している。本町の芸術文化活動の中核的な役割を担っており、予算削減となれば停滞につながる。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
生涯学習の観点に立った、社会教育の重要な施策であり、芸術文化活動の振興・発展を図る上で、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
陶芸も徐々に根付いており、町民の芸術文化活動の推進・発展には町の支援は必要である。今後は、利用者の自立を促すことが重要ではあるが、当面は現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 11 - 2

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	家庭教育推進事業			
評価者	担当課・係名	社会教育課・社会教育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	安田伸雄	氏名
		職名		係長
				齋藤康志
事業の概要	休日の拡大に伴い、地域や家庭における役割も増大しているが、教育力の低下も叫ばれており、子育てをするうえで、もっとも大切な場である家庭での教育のあり方等、学習機会の支援を行っている。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業 □非登載事業		
	政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	
	単 位 施 策	3	青少年教育の推進	
	事務事業の種類	■自治事務 □法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総 事 業 費	314千円	332千円	400千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	314千円	332千円	400千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	多くの学習機会の支援と情報の共有		学級数と参加者	
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	家庭教育の充実に向けた、学習支援と家庭教育を支援する地域づくり		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	家庭・学校・地域・関係機関とのネットワークの整備		① 開設学級	目標年度 19年度 目標値 10学級 実績値 7学級 達成度 70%
		② 学級及び講演会参加者	目標年度 19年度 目標値 300人 実績値 387人 達成度 129%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)				
①家庭教育学級の開設促進	各保育所・小中学校への開設促進、学級運営経費の一部補助。			
②家庭教育講演会の実施	雄武町PTA連合会との連携及び開催経費の一部補助。			
③				

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	家庭教育は、乳幼児期などの親子のふれあいによる絆の確立、基本的な生活習慣、善悪の判断など全ての教育の原点となるものです。昨今、家庭の教育力の低下が指摘されており当該事業を実施しない場合は、子ども達の成長に影響を及ぼす。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	家庭教育学級を開設したことにより、親子がふれあう楽しさが今一度、再確認できた。家庭教育講演会では、対象年齢層以外の町民の参加もあり、地域ぐるみで家庭教育を考えることができた。
有効／概ね有効／課題あり		

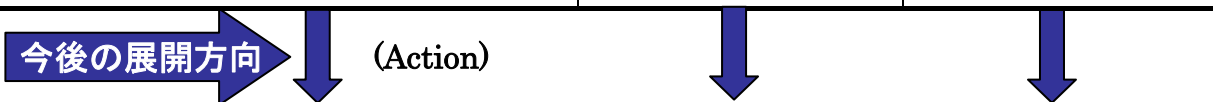
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	家庭教育推進事業での経費を一部補助しているが、実施にあたっての必要最小限の経費補助であり、削減にあれば事業の停滞につながる。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
生涯学習を推進する上で、学校教育・社会教育・家庭教育の連携は重要であることから、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
社会教育の重要な施策のひとつであり、あらゆる関係機関と情報を共有し、今後は、地域ネットの整備も含めて、継続して事業展開を図る。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 11 - 3

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	芸術文化公演事業			
評価者	担当課・係名	社会教育課・社会教育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	安田伸雄	氏名
				職名
				係長
				氏名
事業の概要	舞台芸術の機会が少ない本町において、児童・生徒等を対象に演劇や音楽などの鑑賞機会を支援し、生の芸術にふれる場をつくり、情操の涵養を図るとともに芸術への理解を深め、地域文化の活性化を図るよう推進している。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業 □非登載事業		
	政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	14	芸術・文化の振興	
	単 位 施 策	2	芸術・文化活動の促進	
	事務事業の種類	■自治事務 □法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	1,924千円	2,801千円	1,475千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	1,924千円	2,642千円	1,475千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	的確な学習ニーズを把握し情報の提供と学習支援が必要である。		公演回数と鑑賞者数		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	芸術事業への興味・関心の促進。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	芸術・文化への理解。		① 公演回数	目標年度	19年度
			目標値	4公演	
			実績値	5公演	
			達成度	125%	
		② 鑑賞者数	目標年度	19年度	
			目標値	1,000人	
			実績値	1,392人	
			達成度	139%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①公演会の開催	保育所、小中高校・一般対象の鑑賞会の開催。 学校案内、広報、チラシ				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	様々な分野の芸術文化活動は、より一層心を豊かに生活するうえで大切であることから、当該事業の開催は必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	青少年の健全育成が図られ、地域文化の活性化が促進された。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	大きな公演会については、2年に1度の開催にしており、保育所及び学校関係の鑑賞会は、毎年分野を変えて実施し色々な芸術に触れるよう工夫をしている。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
芸術への関心も高まってきており、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
芸術鑑賞を通して、教育的・文化的な面からも期待でき、鑑賞及び発表機会の支援が重要である。今後もより良い芸術に親しめるよう、継続して開催する。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 11 - 4

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	武雄市児童交流事業			
評価者	担当課・係名	社会教育課・社会教育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	安田伸雄	氏名
				係長
				齋藤康志
事業の概要	児童を武雄市へ派遣することと、武雄市児童を受け入れることによって、地域間交流を図っている。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業 □非登載事業		
	政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	
	単位施策	3	青少年教育の推進	
	事務事業の種類	■自治事務 □法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	1,611千円	1,936千円	2,000千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	1,311千円	1,546千円	1,640千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町内小学生(5年生・6年生)	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	実施年度により、希望者数にバラつきがある。		派遣児童12名、引率者3名 受入児童16名、引率者4名		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	リーダー養成。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	事業実施後の、学校生活及び家庭生活等でのリーダーシップ。		① 派遣児童及び引率者数	目標年度	19年度
			目標値	15名	
			実績値	16名	
			達成度	107%	
		② 受入児童及び引率者数	目標年度	19年度	
			目標値	20名	
			実績値	20名	
			達成度	100%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①児童派遣	町内各小学校に依頼(学校長推薦)し、児童を武雄市へ派遣している。				
②武雄市児童受入れ	武雄市児童を受け入れ、ホームステイや学校交流を行っている。				
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	地域間交流は大変重要であり、当該事業の実施は子ども達の成長に必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	子ども達にとって、雄武町とは違った気候や風土・生活習慣を知ることによって、豊かな人間性とたくましい心が養われ将来のリーダーとして期待できる。
有効／概ね有効／課題あり		

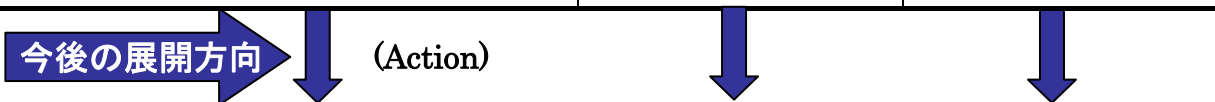
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	平成17年度より現在の派遣人数(児童12名・引率者3名)としており、コスト削減の余地はない。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当
 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要
 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
子ども達は、異文化に触れ、少なからず成長を遂げており、事業後の学校生活においてもその成果が表れているとのことを学校から報告を受けている。		



継続／現状維持		
武雄市児童交流事業を通して、教育的な面から期待ができ、将来の雄武町のリーダーとして養成する事業として継続してことが重要と考える。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 11 - 5

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	ジュニアチャレンジクラブ			
評価者	担当課・係名	社会教育課・社会教育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	安田伸雄	氏名
				職名
				係長
				氏名
事業の概要	子ども達に自然や歴史、文化活動・スポーツ活動を体験させることで、青少年の健全育成を行っている。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業 □非登載事業		
	政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	
	単位施策	3	青少年教育の推進	
	事務事業の種類	■自治事務 □法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	172千円	104千円	0千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	100千円	54千円	0千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	小中学校児童・生徒	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	子ども会と共催で開催しているが、町内だと子どもの参加が少ない。		2回(夏・冬)開催、参加者50人		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	リーダーの養成。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	自立心等の芽生え。		① 開催回数	目標年度	19年度
			目標値	2回	
			実績値	2回	
			達成度	100%	
		② 参加者数	目標年度	19年度	
			目標値	50人	
			実績値	25人	
			達成度	50%	
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
① キャンプ等の野外活動体験の実施	各単位子ども会に案内、小中学校宛チラシ配布。				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

概ね必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	子ども会主体で対応可能と判断する。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	平成19年度は、町内での開催となり、参加者が少なかったが、事業目的は概ね達成された。
有効／概ね有効／課題あり		

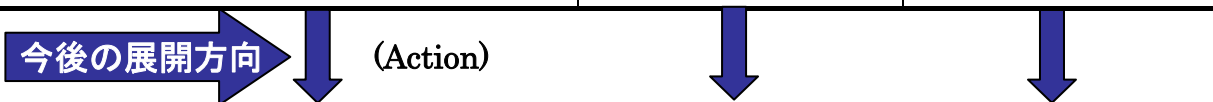
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	参加者には、受益者負担の考えから、参加費を徴収している。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A	A	
実施主体の見直しをする。		



終了	終了	
平成20年度から、実施主体を子ども会に移行するが、社会教育推進の観点から、教育委員会として、バックアップ体制をとる。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

--

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 11 - 6

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	社会教育関係団体活動費補助事業			
評価者	担当課・係名	社会教育課・社会教育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	安田伸雄	職名
				氏名
				齋藤康志
事業の概要	社会教育を推進する中核的な組織（文化連盟・子ども会・PTA連合会）に対して補助を行い、地域の活性化を促進している。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	
	単位施策	1	推進体制の強化	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	650千円	750千円	650千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	650千円	750千円	650千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	会員の減少が見られる。		3団体への補助		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	地域の活性化を目指す。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	地域コミュニティ(地域力)の拡大。		① 文化連盟 子ども会 PTA連合会	目標年度	19年度
			目標値	3団体	
			実績値	3団体	
			達成度	100%	
		②	目標年度	年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①団体補助	実績報告等の提出により、内容精査の上補助。				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	社会教育関係団体への活動支援は重要であり、団体の活性化につながるとともに、雄武町の活性化を図るためにも必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	会員数の減少も見られるが、各団体において、各種発表会や研究会等にも参加しており、自覚と責任も芽生えている。
有効／概ね有効／課題あり		

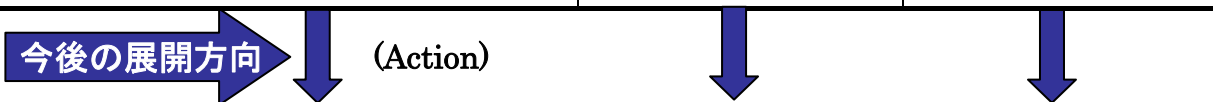
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	各団体とも活動するにあたって非常に厳しく、削減となれば停滞する恐れがある。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当
 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要
 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
社会教育関係団体への補助は、地域の活性化が図られ、社会教育を推進する上で、教育面・文化面からも期待できる。		



継続／現状維持		
各種団体の活性化無くして町の発展は考えられなく、今後も活動費の補助については、継続していくことが重要である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 11 - 7

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	読書促進事業			
評価者	担当課・係名	社会教育課・社会教育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	安田伸雄	氏名
				職名
				係長
				氏名
事業の概要	多様な学習目的と複雑かつ高度化する学習ニーズに対応するため図書の整備を行っている。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業 □非登載事業		
	政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	
	単位施策	4	図書サービスの充実	
	事務事業の種類	■自治事務 □法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	1,050千円	1,050千円	2,650千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	1,050千円	1,050千円	2,650千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	図書館を利用する町民が少ない。		ブックスタート8回40人, 利用者15,000人		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	一人でも多くの町民に、本に親しんでもらうことを目指す。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	本のすばらしさや、図書館を身近に感じてほしい。		① ブックスタート	目標年度	19年度
			目標値	8回40名	
			実績値	8回42名	
			達成度	105%	
		② 利用者	目標年度	19年度	
			目標値	15,000人	
			実績値	13,010人	
			達成度	87%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①ブックスタート	乳幼児健診に併せて開催している。				
②図書館利用者	図書の整備を充実し、利用者増を図っている。				
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	読書は、喜びを与え、成長を助け、人間形成に大きな影響を与えます。公共図書館として学習者のニーズに支援することが重要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	蔵書数も徐々に増え、リクエストにも大部分答えることができています。ブックスタートでは、保護者に好評である。
有効／概ね有効／課題あり		

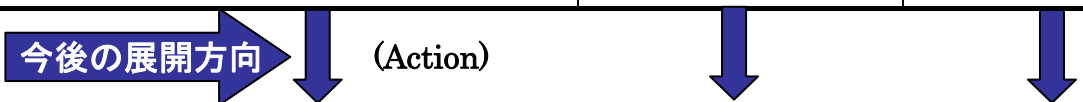
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	5カ年で蔵書50,000冊を目標に計画的に進めているところであり、削減の余地はない。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A	A	
読書活動を推進する上で、図書の購入は必要不可欠であります。町民が豊かな生活を営むためにも、この事業が計画どおり進めることが適当と判断する。		



継続／拡大	継続／拡大	
5カ年で50,000冊の蔵書を計画的に進めており、当面は現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 11 - 8

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	沢木公民館外壁災害復旧工事			
評価者	担当課・係名	社会教育課・社会教育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	安田伸雄	職名
				氏名
				齋藤康志
事業の概要	沢木公民館の外壁破損による修繕を行ったものです。			
事業の位置付け	第5期総合計画	<input type="checkbox"/> 登載事業 <input checked="" type="checkbox"/> 非登載事業		
	政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	
	単 位 施 策	5	施設・備品の有効活用	
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	千円	914千円	0千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	千円	914千円	0千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)									
【抱える課題やニーズは】	災害による外壁破損		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	修繕		①	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度											
目標値												
実績値												
達成度	%											
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	安全な施設利用	②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%	
目標年度	年度											
目標値												
実績値												
達成度	%											
内 容 (どのような手段で何を行ったか)												
①外壁修繕	災害による外壁破損について、見積り合せにし、外壁修繕を行った。											
②												
③												

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	管理者が実施することが妥当であり、安全を図る必要がある。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	安全性が確保され、安心して利用できる。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	修繕費用が小額であったため、見積合せとしたため効率的と思う。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

[A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要]

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
安心・安全が第一条件であり、修繕については適当であった。		



終了		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項